ＡＡ日本ニューズレター No.213

■アルコホーリクス・アノニマス　回復の物語　Vol7　発行に寄せて

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－

B 類常任理事　出版担当　小谷

日頃から AA にご理解と協力して頂いている皆さま、AA メンバーの皆さまに英語版第4版の個人の物語の翻訳版 Vol.7 発行をお知らせ出来る事を心より感謝と喜びを感じます

『アルコホーリクス・アノニマス』のカバー裏表紙にビッグブック小史として以下の様に記載が有ります。「ビッグブックに掲載されている個人の物語は、私たちの多くが思っているよりもはるかに重要である。個人の物語の部は、私たちが AA の外の人々と出会うための不可欠な道具であり、また AA ミーティングで仲間たちが話しているのをその場で聞くのに等しい読み物であり、さらには私たちの成果を展示するショーウインドーでもあるのだ」。

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－

AA 日本ゼネラルサービスは多くの出版物を発行している事は皆様ご存じの事とおもいます。AA 出版物は普遍の原理を歪められる事なく伝える手段です。次の様なビル・W の文章が残っています。

「もし、過去 25 年間に、AA の基本的な書籍が一冊も出版されていなかったとしたら・・・本もパンフレットも何もないところを想像してみてほしい。AA のメッセージは救いようもなく歪められていたことだろう。AA と治療薬、宗教の関係は最悪なものになっていただろうし、アルコホーリクは笑いの種となり、不可解な集まりだと思われただろう。出版物がなかったら、AA はまちがいなく、論争と分裂の混乱の中で身動きがとれなくなっていただろう。」

1964年5月号『グレープバイン』誌より

今回はAAの基本テキスト『アルコホーリクス・アノニマス』(英語版第4版)の後半に収録された回復の物語 41 編(ボブの悪夢を除く)の内の5編の日本語翻訳です。

第1部　AAのパイオニアたちの話　1編(与えられた鍵)　第2部　時間があるうちに酒をやめた人たち　2編(私も同じ、果てしなき探求)　第3部　ほとんどすべてを失った人たち　2編(人生の立て直し、空っぽの心)　で構成されています。

2010 年に第1巻が発行されてから、今回の第7巻で全 42 編の翻訳版全てが発行されたことになります。Vol.4発行時私は以下の様な感想分を書いて居ります。「この小冊子には経験と力と希望のメッセージが収められています。私は、AA 書籍を通じて今は亡きスポンサーと出会いました。AA ミーティングに通い始めたばかりの精神科病院入院中のミーティングは私にとって癒しと安らぎの場だと思って居たのですが、暫くしてこれでこれからも飲まずに生きていけるのだろうか？AA はグループ・セラピーなのか？どうせ AA と言っても傷の舐め合いじゃないのか？とスポンサーに聞いたところはっきりと「いや、違いますよ」と言って『BOX-916 精選集第4巻』のーAA はグループ・セラピーではないーを提示してくれました。」明確な解決法が AA に有る事を知りました。あの時 AA メンバーになろうと決心したように思います。

回復の物語　Vol 7

価格：300円

ページ数：89頁

※第1・2・3巻は完売いたしましたが、第4・5・6巻は引き続きご好評いただいています。

このように私が導かれたのは AA 書籍との出会いと言っても良いと思う位私にとって重要な意味を持つものです。回復の物語 Vol.1 が発行されたのは私がソーバー3年目の時です。

私にも又他の幾万ものアルコホーリクにも個人の物語が有りそれぞれの人生にアルコールが影を落としやがて AA にたどり着き回復の道を歩みだしました。

AA の基本書籍『アルコホーリクス・アノニマス』は時代、社会の変化（如何にそれらが変わろうとも）に対応して個人の物語の再編が行われ本編の原理が有効性を持っている事を証明しており、それは言い換えれば普遍性を持っている証でもあると言えます。

個人の物語はアルコホーリクが飲んでいる時どの様であったかそして AA が如何にその回復に有効であるか知るためには格好の手段だと思います。

彼らが語るのは実は私達アルコホーリクの問題の本質である硬い頑固な自我の壁に亀裂を入れる手段と其の解決であり、それは何にも増して私達には有効なのだと信じています。アルコホーリクに接して居られる皆様には本冊子の一読を、そしてお勧め頂きたいと思います

本冊子の発行に時間が掛かったのですが。以前私は多くの書籍が早く翻訳発行されれば良いのにといつも思って居ましたが出版の発行手順が翻訳、訳語のチェック、校正、最終校正そしてそれらがそれぞれの専門分野の人の手を経なければならない発行する側の事情や責任を知ると既に発行されている物が多く有ることにも心せねばと思うように為りました。

最後になりますが、5月12日から14日まで開催された西関東甲信地域の春季ラウンドアップに参加させていただき、多くの出版物が頒布されました。書籍は回復、一体性、サービスを仲間と分かち合う共通認識になると同時に献金でもあり AA 共同体を支える重要な収入源でもあります。担当理事としては心からの感謝と喜びで一杯です。有難うございました。

■日本の AA を振り返るフォーラム実施報告

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋

それぞれの役割を通して仲間の楽しそうな笑顔に接するたびに AA の一体性を感じました。

B 類常任理事　企画担当　今井

関係者の皆さまには日頃より AA 活動にご理解ご協力を賜り深く感謝申し上げます。今回のイベントは AA メンバーだけが参加する方式で開催されました。関係者の皆さまには紙面を通して報告をさせていただきます。

2023 年 3 月 26 日に「第1回日本の AA を振り返るフォーラム」が福島県郡山市中央公民館で開催されました。

「恐れることなく過去を正確に振り返ることで、共同体の歩みへの感謝を深め未来に向け進んでいく」 を目的に、当日は会場オンライン含め160名を超えるメンバーと分かち合うことができました。

プログラムは二部構成になっており、午前はアーカイブ事業の説明と AA 日本20周年記念誌『いくたびもの出会いを重ねて AA 日本 20 年の歩み』から年表やアーカイブ資料をもとに草創期の 10 年を振り返りました。午後は東北地域の AA ができて間もないころからのメンバーにスピーカーをお願いしました。

「1983 AA が東北に来た」「グループでのアノニミティ」についてのスピーチの後、会場とオンラインからの質問・感想をつなぎ活発な質疑応答が行われました。詳細につきましては次回評議会で報告いたします。

日本の AA の始まりは 1975 年 3 月東京蒲田のミーティング場で初めて日本語のステップ・ミーティングが開催されたときにさかのぼります。AA 日本20周年記念誌を読むと、アメリカに帰国し AA メンバーとして 1974 年再来日した神父が自身の回復の質を高めるため、メッセージを運んだことに始まると書かれています。

日本人神父との出会いや山谷の福祉センター所長とのエピソードなど AA メンバーのみならず研究者にとっても大変意味のある歴史の事実として残されています。

しかしながら、突然日本の AA がどこからともなく生まれた訳ではありません。1952(昭和27)年頃から、いろいろな国から日本にAAメンバーたちが集まってミーティングを開いていました。その中の一人と日本人医師の出会いを経て、1956(昭和 31)年10月末に武庫川病院内で AA 会が始まりました。AA 日本20周年記念誌の2頁より抜粋します。

私達の AA グループが誕生するまで

『1975 年 3 月に至るまでの
日本国内の”AA”事情、そして”AA”を取り巻く状況』

1950(昭和 25)年、禁酒同盟山室武甫氏、米国の AA を日本に紹介。

1952(昭和 27)年のころ、いろいろな国から日本にやって来たAAメンバーたちは、自分自身のソブラエティを維持するため、まだ苦しんでいるアルコホーリクにメッセージを運ぶ努力をしていた。ボブBという男もそんな中のひとりだった。（INL）

1952(昭和 27)年、ボブBは名古屋の米空軍病院へ12番目のステップ（メッセージ）活動を始めた。当時の軍のアルコホリズムの公式な治療法というのは懲罰的なもので、一日か二日刑務所にほうり込むというものだった。そのこと東京ではすでに、いろいろな国のメンバーが10名ほど集まってAAミーティングを開いていた。会場はギリシャ人メンバーが経営するレストランだった。ボブも半年に一度は上京し、このミーthングに参加していた。（INL）

1956(昭和 31)年10月末、武庫川病院内AAの始まり。家族とともにスタート。オブザーバーとして、医局から医師、心理技師、看護師も出席。その後、アメリカのAAメンバーが出席して、本場のAAのやり方、AAの祈りの言葉、12の階梯と伝統、スローガン等を教えてもらい、さらにAAのパンフレットも入手。その後、AA大阪支部、尼崎支部結成。また、神戸、西宮でも開催。（吉田）

※(INL):日本インターグループ・ニューズレター。当時日本在住の外国人の AA グループが発行していた。
※(吉田):吉田医師。武庫川 AA 会を主催されていた。

何もない手探りの状態から我々に経験と力と希望の光を照らしてくれた先人たちの AA に対する熱い愛と情熱を感じます。敬意をこめて感謝申し上げます。

次回の「日本の AA を振り返るフォーラム」は来年 2024 年 3 月、関西地域で開催する予定です。開催方式含め準備が始まっていますのでご期待ください。

最後になりましたが初めてのフォーラム開催に向けて準備頂いたアーカイブ委員の皆さん、東北地域のメンバーそして当初から携わって頂いた実行委員会の 3 名、会場の飾りつけや設営に協力頂いた福島地区のメンバーの皆さんそしてテックチームの皆さん、惜しみない献身を頂き誠にありがとうございました。

それぞれの役割を通して仲間の楽しそうな笑顔に接するたびに AA の一体性を感じました。心より感謝申し上げます。

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋

振り返るフォーラムのある風景

白河グループ　オハナ

『日本のAAを振り返るフォーラム』が 2023 年 3 月に東北で開催されることになり、2022 年の春から東北メンバー2 人と共に振り返るフォーラム実行委員会に参加させていただきました。いま静かに振り返ると、この 1 年間はまるで、予告を見ずに先入観抜きで臨んだ映画のようでした。

開催地は福島県郡山市に決定。会場探しの都合でホストとなる東北地域と福島地区にフォーラムの詳細が伝わるのが遅くなってしまったものの、お手伝いの募集をすると“OK！”“やろう、やろう！”と仲間が集まってくれました。実行委員会とホスト地区の打ち合わせは主にオンラインでしたが、そちらに参加できなかったお手伝いメンバーとも連携し、スケジュールを合わせては準備に取り組みました。ミーティングや委員会とは違う雰囲気の中、ハサミや糊を片手にみんなでわちゃわちゃと会場の装飾などを工作しました。この楽しさもまた、AAらしくて愛おしいのです。

そんな中、その準備作業の日に集まった献金をどうしようかという案件が浮上し、実行委員会に相談したところ、お手伝いメンバーのみなさんで決めてくださいということになりました。作業の手をいったん止め、10 数人が話し合いのために机を囲みました。いくつかの提案が出され、ぽつぽつと質問や意見が飛び交い始めます。うれしかったのは、ニューカマーの仲間も積極的に質問してくれたこと。私たちの置かれた状況、献金への責任、それぞれの思いを分かち合ううちに、だんだんと場の空気が熱を帯びていきました。何度か採決を繰り返し、そしてついに、出し尽くされた意見の向こうにみんなの良心が導き出されたのです。なに この風景。身近な実体験の中から一体性や伝統を学んで共有していく。AAのプログラムはどこにでも生きている。気がつけば、私はぬかりなく感動していました。

今年の春が来て、いよいよ迎えたフォーラム本番。会場には貴重なアーカイブの資料が展示されていました。歴史を感じる装丁や手書きの文字。手に取ると、先人の仲間たちの苦労と工夫と情熱がずしりと重く、日本のAAを大切に未来へ伝えよう、という思いに呼応してくれているように感じました。このフォーラムのお手伝いのために、福島県外のメンバーも前日から泊りがけで参加してくれました。感謝です。お手伝いメンバーのほとんどが今回のようなオンラインを併用した大きなイベントは初めてでしたが、フォーラム終了後の棚卸しでは「役割ができて楽しかった！」「機材の操作ができてうれしかった！」と、全員が次々に笑顔で感想をリレーしていきました。次の振り返るフォーラムに携わる仲間の(ちょっとでも)お役に立てたらと、反省点や意見も出し合いました。そして、遠くから参加してくれた仲間の「東北はあったかい」という感想に、逆にちゃっかり温められた私たちなのでした。

正直に言うと、この1年の途中には、慣れない役割に心がついていかない時もありました。そんな私を見て、仲間がくれた言葉があります。「気楽にやろう」私はいったんリュックを降ろして、また靴紐を結び直すことができました。AAにいると実感します。前を向かせてくれるのも、隣で肩を並べてくれるのも、背中を押してくれるのも、いつだって仲間とプログラムなのです。

会場・オンラインに参加していただいた仲間のみなさま、このフォーラムの企画・準備に携わったすべての仲間のみなさま、そしてこの機会を与えていただいたことに、ぜんぶぜんぶ ありがとうの気持ちでいっぱいです。

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋

そこには確かに、もうすぐ 50 年となる日本の AA の愛(とサービス)の輪があったと確信しています。

弘前グループ　綾

「日本の AA を振り返るフォーラム」の実行委員会に参加させていただき、多くの仲間のお力をいただきながら、フォーラムを無事に終えることができました。オンラインでの会議と打ち合わせを重ね、先行く仲間の経験と豊富な知識を分けていただき、新しい仲間からはチャレンジする勇気と希望をいただきました。

私は当日まで打ち合わせは全てオンラインでの参加でしたので、実際に会場となる公民館へ足を運び、予約や設備の確認をしたり、会場の飾り付けや垂れ幕、献金箱等を作成してくださったのは開催地となる福島県郡山市近辺の仲間の皆様でした。

一部の仲間に負担をかけてしまったことは反省点だと思っています。ホストとなる福島地区の打ち合わせでは、あまり時間に余裕が無かったにも関わらず、多くの仲間のご協力のおかげで、会場設営もスムーズに和気あいあいと進みました。フォーラム当日、緊張しながらビッグブック第 5 章「どうやればうまくいくのか」を朗読してくれた仲間、コロナ禍になってから AA に繋がったため、AA のイベント自体にあまり経験が無いという仲間、それを見守る日本の AA の初期を知る仲間、久しぶりに会えた喜びを分かち合う仲間の姿…。そこには確かに、もうすぐ 50 年となる日本の AA の愛(とサービス)の輪があったと確信しています。

私は自分が AA に繋がることができた経緯を「「飲酒問題でどうしようもなくなり、受診した病院にたまたま AA のメッセージが入っていたんです。とてもラッキーでした」と話してきました。

ですが、私が簡単に一言で済ますその「たまたま」「ラッキー」に出会えて、命を助けられたことには、どれだけの先行く仲間達のご尽力があってのことだろうか、草創期のメンバーの方々のどれほどのご苦労、そして愛と情熱があってのことだろうかということを、手書きの『ビッグブック』を仲間と一緒に拝見して、改めて実感しました。

フォーラムが終了してから「あんなことを質問してみればよかった。もっとこうしたらよかったかな」等、反省点は多々あります。しかしながら、マイナスに思える経験にも蓋をせず、それを経験として未来への力と希望に変えていけることを教えてくれたのが AA です。貴重な経験をどうもありがとうございました。

■B 類常任理事　着任の挨拶

AA の存続と発展のために尽くしたいと思います

＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋－＊－＋

B 類常任理事　ゼネラルサービス枠　JSO、評議会担当　郷

2023 年 3 月に欠員補充選挙にてゼネラルサービス枠 B 類常任理事に信任を頂いた郷と申します。東関越地域城北地区の本郷東大前 12 ステップグループに所属しています。15 年のソブラエティーを頂いています。

2008 年からローカルサービスの CO 委員、その後代議員と経験させて頂く中、旧関東甲信越地域を分割するという議案が地域集会で出され、話し合いが始まりました。10 年以上前の事です。

話が大きすぎてなかなか具体的に動き出さず、2016 年 11 月の第 3 回地域集会にて「関東甲信越地域を分割する」という事がようやく可決されました。翌年の 2017 年から、私は地域集会議長団に加わりました。

その年は、多忙かつ充実していました。具体的にどのように分割するか、地域役員から案を示すのではなく、広くグループや地区から公募したのです。夏頃には 40 件以上集まりました。そして 11 月の第 3 回地域集会で提案者にプレゼンをしてもらったのです。12 月に臨時地域集会を開催し、第三レガシー方式で決定しようという事になりました。そして奇跡的に、ハイヤーパワーの配慮で分割案が決まりました。仲間の力が結集して一つの分割案を作り上げた実感があり感動しました。

2018 年から具体的な工程案の作成と説明、それを討議して一つに纏めていくという役割を担わせて頂いたとき、「皆と一緒に AA の変化を進めているんだ」という実感がありました。地域役員 8 名は本当に協力して課題を進め、委員会帰りに月島で「もんじゃ」をよく食べました。予定では 2021 年から分割スタートという事でしたが、コロナ禍の影響もあり 2022 年から正式にスタートしたわけです。

私の方は 2019、2020 年と旧関東甲信越地域選出評議員をさせて頂き、多くの地区を担当して評議会と地区の橋渡しをさせて頂きました。評議員を終えてグループのサービスをやり、2022 年からは「AA 公式動画作成委員会」のメンバーをさせて頂く中、昨年 10 月に東日本圏ゼネラルサービスフォーラムが開催されました。これには大きなインスパイアを受けました。AA の存続と発展のためにお役に立ちたい。そういう強い思いが心の底から湧いてきました。丁度その時、B 類常任理事欠員補充選挙の話を頂いたのです。

これもハイヤーパワーなのでしょう。何名かの理事、評議員からの薦めもあり、ぜひ役割に就かせて頂きたいと思った次第です。

私一人では何も出来ません。しかし他の理事、WSM 評議員、評議員、JSO スタッフ、多くの仲間と共にやるならば、きっとハイヤーパワーが導いて下さると信じています。どうぞよろしくお願い致します。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：ＮＰＯ法人ＡＡ日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F　Tel:03-3590-5377　Fax:03-3590-5419
http://www.aajapan.org　　jso-1@fol.hi-ho.ne.jp
(月～金)10:00～18:00（土・日・祝）休